

第1回検討委員会での質問に関する補足説明

第1回検討委員会 委員からの質問	事務局からの補足説明
<p>【先進事例の競合施設等】</p> <p>● 横浜アリーナ、ゼビオアリーナ仙台、沖縄アリーナなどで、近くに競合するアリーナ等があった場合に、どういう運営の問題があったとか、逆に競合しないから建てたなど、わかれば教えてほしい。(宗野委員)</p>	<p>先進事例において紹介した愛知県新体育館は、現体育館の役割(スポーツ等)を引き継ぎつつ、新たに全国レベルのコンサート等の拠点とすることをコンセプトとし、名古屋市での開催が見込まれるコンサート等の公演数から、同市内にある既存の日本ガイシホールの公演数を除き、収支を試算しています。</p> <p>また、ゼビオアリーナ仙台は、席数や用途の違いにより、周辺の類似施設とのすみ分けがされています。</p> <p>本市が検討しているアリーナの競合・類似施設として、県西部のエコパアリーナや、市民利用においては、このはなアリーナ等が想定されます。これまでの事業者ヒアリングでは、立地等の条件から、エコパアリーナと比較すると東静岡が優位という意見が多くありました。</p> <p>既存施設の用途や役割とのすみ分けや、スポーツや音楽イベント等の需要を引き続き調査し、事業性を精査していきます。</p> <p>【資料4-1】愛知県新体育館基本計画(概要)抜粋 【資料4-2】事業者からの主な意見(競合施設)</p>
<p>【誘致予定場所の地盤条件】</p> <p>● 広大な軟弱地盤地域である。施設の耐震性能をどのように求めるかに大きく関わり、特に地震災害時、道路が本当に使えるか、周辺からのアクセスが可能かどうか、重要な課題になる。また、スポーツイベントや音楽コンサートの時の振動の問題に、地盤が大きく関与する場合がある。地盤条件をきちんと調査し、提示していただきたい。(岩田委員)</p>	<p>過年度の誘致予定場所付近(長沼大橋・東静岡大橋)の地質調査から、誘致予定場所は支持層が深い位置にあることが想定され、アリーナを建設する際は、一般的な地質条件と比べ、基礎工事にかかる費用が高くなる可能性があります。</p> <p>現時点では、誘致予定場所の地質調査は未実施のため、事業化の際は、事前に調査を行いたいと考えます。</p> <p>【資料4-3】誘致予定場所周辺の地質調査結果</p>
<p>【プロジェクトシミュレーションの前提条件】</p> <p>● 何日稼働すれば維持管理、運営時の採算が取れるのか。(宗野委員)</p> <p>● 前提としている会場使用料が、現在のチケット収入や公演の事業費をふまえてどの程度のレベル感にあるのかは、重要なポイントだと思う。前提の数値などを示していただけると助かる。(長井委員)</p>	<p>令和3年度に市が実施したプロジェクトシミュレーションでは、音楽興行8,000席以上の場合、維持管理・運営時は事業の採算が見込まれるものの、建設費を含めると、事業の不足額が生じることを試算しました。</p> <p>プロジェクトシミュレーションの結果は、事業者がアリーナ事業への入札等において検討する際、市の想定や試算等の影響を受けないよう、非公表としています。</p>
<p>【先進事例の事業収支】</p> <p>● 他のアリーナで、類似の規模で公開されているものがあれば、稼働率、一般的な施設利用料の掛け算で、基本的な売上げが大体見えてくる。それに対し、コストがいくら、一般運営費の収支など、可能な限り検討材料があればありがたい。(菅委員長)</p>	<p>運営中の類似施設の稼働率は、概ね5~8割と見込まれます。横浜アリーナのように、主に興行利用で稼働する施設のほか、プロスポーツなど、その他の利用で主に稼働する施設もあり、利用形態や料金単価は、施設ごと異なっています。</p> <p>【資料4-4】類似施設の稼働状況・料金単価等</p>

第1回検討委員会 委員からの質問	事務局からの補足説明
<p>【稼働率・経済波及効果の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回遊・交流人口、インバウンド需要などが増え、地域経済に広く効果があるということなので、どの程度の稼働率を我々が目指すべきなのか観点からも、稼働率は重要なファクターになる。可能な限り、検討できる資料をいただきたい。(岸委員) ● 仮に市が出資する場合、それに見合った経済波及効果をアリーナに求めるので、どんなシミュレーションで経済波及効果が生まれてくるのか、今の段階ではどういう想定か議論しなければならない。(岸委員) 	<p>令和 2 年度に実施した経済波及効果の試算では、施設規模(席数)ごと、ヒアリング等から施設整備費、運営支出、来場者消費支出(交通費・宿泊費・飲食費・買物等)、イベント毎の利用日数や来場想定人数を設定した上で、事業期間を 30 年とした場合の効果を算出し、結果を公表しています。</p> <p>令和 3 年度に実施した経済波及効果の試算は、プロジェクトシミュレーションと同じ前提条件に基づくため、プロジェクトシミュレーションと同様に非公表としています。</p>
<p>【静岡県内・県外・広域の需要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県全域、東海や関東から客を呼ぶなら、意見をどこかの段階で聞いておく必要があるのでは。県内の多くの方々に、静岡市内に何を作るか、議論しておいていただきたい。音楽コンサートやミュージカルを見に、浜松、名古屋、横浜に行ったりする。そういったニーズを把握しておいていただきたい。(岩田委員) ● 県全体、あるいは東京圏、愛知圏などを視野に入れたりサーチが可能か、ご検討いただければと思う。(菅委員長) 	<p>市場調査では、県内外の需要が見込まれる等、広域の需要に関する前向きな意見がありました。</p> <p>今後、アリーナに対する県内外のニーズをさらに把握するため、有効な調査方法を検討したうえで、スポーツや音楽イベント等の需要を引き続き調査し、事業性を精査していきます。</p> <p>【資料4-5】事業者からの主な意見(広域の需要)</p>
<p>【アマチュアスポーツの需要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県内のスポーツ大会を開催する施設需要、いろんなスポーツのアマチュア利用のニーズがどれだけあるのか、お知らせ願いたい。(長井委員) ● 市民利用やマチュアスポーツの、類似施設との住み分けがどうなっているのか、需要がどの程度あって、既存施設でさばききれているのか、使用料の問題にも直結し、アマチュアは割引で使われているのかという議論も必要になってくる。(岸委員) ● 稼働率の状況、本来はもっと使いたいのに使えない状況にあるのか、調べていただけるか。(菅委員長) 	<p>市内の体育館の利用状況について、市スポーツ協会にヒアリングを行ったところ、平日の昼間は、主に協会が主催する教室が行われていること、夜間は各種の団体が利用し、需要が多いことがわかりました。</p> <p>市内の体育館の稼働率が概ね高い状況から、市民利用に関し、一定の需要があることが想定されます。</p> <p>【資料4-6】市内体育館の稼働率</p>